

そお市の旬なニュースをお届け

まちなわだい

鹿児島大学病院総合臨床研修センターを高校生が訪問

8月6日、曾於高校文理科の生徒13名が鹿児島大学病院総合臨床研修センターを訪問しました。

このセンターは医学生や研修医がトレーニングするための臨床用シミュレーターが設置されており、ここに高校生が訪問するのは初めてです。

現場の先生方から「曾於地区の医師不足の現状」や「医学部の入試制度」などの説明ののち、センター内を見学。実際に腹腔鏡、内視鏡、心肺蘇生のシミュレーターも体験しました。

内視鏡手術では共同作業もあり、一人は内視鏡の操作、もう一人は出血箇所のクリッピング（消化管出血時、血管を周囲粘膜とともにクリップで挟み出血を止めるというもの）を行いました。

ケーブルの入れ方が悪いとシミュレーターに吐く動作がおき、苦しんでいるのが伝わってくるなどとてもリアルで多くの生徒が苦戦していました。

最後にはセンター長である佐藤教授から「次はぜひ研修生としていらっしゃい」との言葉もあり、研修も終了。



研修センターの先生方も一緒に
全員で記念撮影

参加した生徒から「医師の方々がより良い医療を提供するため日々勉強を続けていることを知り、私も努力を重ね夢を叶えたいという目標を持った（文理科2年生）」「シミュレーションではなかなか上手くできず苦戦したが医師の皆さんは実際にやっているのだと思うとすごいと改めて感じ、一層医療の道に進みたいと思った（文理科1年生）」と話しました。

こういった経験を通して、曾於高校から医師を目指す生徒が出て、今後曾於地区の医療を支える存在となることが期待されます。



センターでの実習のようす

昨年の雪辱果たし日本一！

8月11日、愛媛県で全国小学生学年別柔道大会が行われ、柔心館道場の岡元遥樺さん（財部小学校6年）が優勝し、日本一に輝きました。岡元さんは「前回大会は決勝で負けて悔しい思いをしました。課題である寝技の練習を重ね、今回は平常心でいつも通りできました。目標は志々目愛さん（同道場出身）のような日の丸を背負う柔道家になることです」と話しました。



柔心館道場の岡元さん（左）と西郷監督（右）

宝くじ助成金で音響設備を整備

平成31年度コミュニティ助成事業により、正ヶ峯地区公民館に音響設備を整備しました。この事業は宝くじの事業収入を財源としている助成事業で、地区公民館が行うコミュニティ活動の促進と地域の連帯感・自治意識を盛り上げることを目指して支援しているものです。この備品が今後の公民館行事に積極的に活用され地域の活性化につながることを期待されます。



正ヶ峯地区公民館に整備された音響設備

そお市の旬なニュースをお届け

まちのわだい

イングリッシュキャンプを開催

8月19日、20日曾於市イングリッシュキャンプが鹿屋の大隅青少年自然の家で行われ、市内在住の中学生23名が参加しました。この事業は国際社会に適用し、国際感覚を備えた人材を育成することを目的にしています。参加者はアメリカから招聘された大学・高校生8人とオールイングリッシュで衣食住を共にしました。参加者からは「リスニング力がついた」などの声が聞かれました。



アメリカンカウンセラーと参加者

畜産振興大会 畜産の今を知る

8月7日、曾於市畜産振興協議会が主催する第15回曾於市畜産振興大会が開催され、553名が参加しました。畜産振興に貢献した方、畜産業の技術等について顕著な成績をあげた方々12名を表彰しました。また鹿児島経済連 内山正二氏による最近の畜産情勢についての講話と、特別講演として萬田農園 萬田正治理事長の「なぜ、今小農なのか」についての講演がありました。



末吉総合センターにて

監査委員が審査意見書を提出

8月27日、曾於市監査委員（野村行雄代表監査委員・土屋健一監査委員）が市長に平成30年度の曾於市一般会計・特別・水道事業会計歳入歳出決算の監査意見書を提出しました。これは市長が提出した決算について、予算が目的に沿って適正かつ効率的に執行されているか等を法令に基づき審査し、その結果を報告するものです。意見書の内容は今後の予算執行に生かされます。



野村代表監査委員からの意見書提出のようす

社会福祉大会に約700名が来場

8月25日、末吉総合センターにて「第15回曾於市社会福祉大会～みんなの力で人にやさしいまちづくり～」が行われました。福祉作文・ポスターや8020達成者などの表彰、豊中市社会福祉協議会 コミュニティソーシャルワーカー勝部麗子さんの講演やパネルディスカッションなど充実したステージプログラムとなりました。バザーも例年より拡大し、多くの人でにぎわっていました。



壇上のようす

そお市の旬なニュースをお届け

まちのわだい



クイズラリーのあとのくじ引き

山んなかマーケットが今年も開催
8月24日、末吉町にある山中貞則顕彰館で「山んなかマーケット」が開催されました。このイベントは山中貞則顕彰館と曾於市地域おこし協力隊が主催で、昼にはワークショップを、夜には飲食店なども出店し夜市が行われました。顕彰館内のクイズラリーでは、何周もまわる子もいて「今まで来たことがなかったのだから楽しい」と話しました。昼と夜合わせて約200人がこのイベントに参加しました。



昼の部 ワークショップのようす



夜の部 夜市でのピアノ演奏のようす

関西大学の学生が政策を提言

8月26日、曾於市と連携協定を結んでいる関西大学経済学部が学生が施策提言発表を行いました。発表では曾於市の問題である人口減少に対して雇用創出の提案が行われました。この取り組みは今年で4回目、学生が市内外の企業等を現地調査し地域活性化に向けた政策提言を行うものです。今後も若者の視点を政策に生かせるために大学との連携を行っていきます。



提言発表のようす

スカウトが老人ホームで奉仕活動

9月8日、ボーイスカウト曾於第6団が今年で37回目となる車イス磨きの奉仕活動を特別養護老人ホーム輪光無量寿園で行いました。団員の大曲海音さんは「気持ちを込めて車イスをきれいに磨いた。おばあさんから『ありがとう』と声をかけてもらい嬉しかったです」と話しました。ボーイスカウトでは、仲間を募集しています。入隊までの案内はインターネットで曾於第6団を検索してください。



車イスをきれいに磨くボーイスカウトの団員

そお市の旬なニュースをお届け

まちのわだい



産地の違う牛肉の食べ比べを行う児童たち



食育に関する出前授業のようす



黒豚のスタミナ炒めを食べる児童たち

クロの日にナンチクが黒豚肉提供
9月6日、株式会社ナンチクが『クロの日』にちなんで曾於地区の小中学校に6801食分の黒豚肉344キ（6.9頭分）を提供しました。同社は年2回、曾於地区の全小中学校に地産地消と食育の一環で黒豚肉を提供。昨年からはお肉に関する出前授業も行っています。
『黒豚のスタミナ炒め』を食べた月野小4年の吉岡奏音さんは「お肉がとてもやわらかい。ご飯がすすむ味付けでおいしかったです」と感想を述べました。ナンチク経営企画課の室屋周平さんは「出前授業では命の大切さを分かってももらえた。今後もその気持ちを忘れないでほしいです」と話しました。



若田宇宙飛行士が故郷で講演

9月8日、大隅文化会館で若田光一 JAXA 宇宙飛行士の講演会が行われ約1000人が来場しました。講演では宇宙船内で行われる実験の様子などを紹介。若田さんは「曾於市は祖父と父のふるさとであり私の心のふるさと。宇宙で曾於市を見ると心が安らぎます」と曾於市への想いを話しました。

質問コーナーでは「宇宙飛行士になるには」との問いに「私は宇宙に行きたいという希望を持ち続けた。宇宙に行つて具体的に何をしたいかという明確な目標を持って頑張ってください」と答えていました。



そお市の旬なニュースをお届け

まちのわだい

祝長寿！中部地区公民館敬老会を開催

9月16日（月）そお生きいき健康センターで敬老会が行われ、77歳～96歳の122名が参加しました。1部の式典後、2部の余興では踊りや歌、寸劇などが披露され、会場は笑顔と笑いに包まれました。また、休憩時間にはのびのび体操を行い気持ちよく身体を動かしていました。参加者は「余興のステージがレベルが高くて楽しい。参加して良かった」と話していました。



のびのび体操を行うようす

救急の日に救命講習会が開催

9月9日の『救急の日』に財部きらめきセンターと財部中央公民館で大隅曾於地区消防組合主催の救命講習会が行われました。参加したのは曾於地区内にある事業所関係ら約80名。救急救命士の指導を受けながらAEDを使った心肺蘇生法などを学びました。川野消防長は「救急車が到着するまでの応急手当が重要。講習で学んだことをいざという時に活かしてほしい」と話しました。



AEDを使った心肺蘇生法の実技をする受講者